

平成22年度

長岡京市立中学校国際理解教育推進事業

米国マサチューセッツ州  
アーリントン姉妹都市訪問  
報告書

長岡京市立中学校国際理解教育推進協議会



## は じ め に

学校教育課総括指導主事  
本 島 知 樹

4月24日から5月4日までの11日間、中学生16名、高校生5名、引率者6名の計27名で、長岡京市の代表として、アーリントンを訪問してきました。

今回の訪問団のキャッチフレーズは、「チャンス・チャレンジ・チェンジ」の3つのCといたしました。

1つ目のCは、「チャンス」です。

中学生の訪問団員は、100名ほど応募があった中から選ばれたメンバーです。今回の訪問を、人生のチャンスととらえて活動してほしいと考えました。

2つ目のCは、「チャレンジ」です。

アーリントンでは、様々なプログラムが用意されています。活動には積極的にチャレンジし、長岡京市やアーリントンの文化や歴史についても向こうの方と交流し、友好を深めてきてほしいと考えました。

3つ目のCは、「チェンジ」です。

自分たちの国際感覚を磨くいい機会なので、いままで日本で学んできたことを、より広い視野で考えられるようチェンジしてもらいたいと考えました。

訪問団員は、この3つのキャッチフレーズを大切に、長岡京市の代表として、日本の文化、長岡京市の文化をアピールすることにより、アーリントンの人たちに感動を与え、アーリントンとの交流を深めてくれたと確信しております。

また、今回の訪問を通して、アーリントンの人たちに再度感謝を申し上げたいと思います。グリーリー議長を先頭に、小・中・高等学校はもとより、まちをあげての歓迎をしていただきました。特に、桜祭が今年度から開催され、長岡京市との交流を大切にしていこう姿勢を強く感じました。

さらに、ホストファミリーの子どもたちへの懇切丁寧な対応にも頭の下がる思いでありました。今回の桜祭を契機に、新たに、ホストファミリーの希望があるようで、まちをあげての交流の気運が高まってきているように感じました。

終わりになりましたが、本事業の実施に御支援いただきました関係者の皆様に、心より厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。

# 目 次

## はじめに

### I 訪問の部

- 1 訪問団員名簿 . . . . . 1
- 2 訪問日程 . . . . . 2
- 3 生徒感想文 . . . . . 4
- 4 アーリントンだより . . . . . 15

### II 来訪の部

- 1 代表挨拶 . . . . . 22
- 2 訪日団員名簿 . . . . . 24
- 3 訪日日程 . . . . . 25
- 4 生徒挨拶 . . . . . 27
- 5 代表お別れの言葉 . . . . . 28
- 6 アーリントン訪問団友好紀行 . . . . . 30

# I 訪問の部



## 1 訪問団員名簿

### 役員・引率者

役職	氏名	備考
団長	本島 知樹	長岡京市教育委員会 総括指導主事
副団長	丹光 真衣	長岡中学校 英語科教諭
副団長	仲村 久美子	長岡第四中学校 英語科教諭
コーディネーター	遠山 園栄	長岡京市 国際理解教育交流指導員

### 生徒

学年	生徒氏名	備考
2年	佐本 朱理	長岡中学校
2年	宗像 美月	長岡中学校
2年	湯川 和志	長岡第四中学校
2年	中小路 崇仁	長岡第四中学校
2年	植月 謙	長岡第四中学校
2年	谷山 美香	長岡第四中学校
3年	福田 拓真	長岡中学校
3年	和田 千佳	長岡中学校
3年	八木 剛至	長岡中学校
3年	松村 萌華	長岡中学校
3年	伊豆 夏希	長岡中学校
3年	中川 葉那	長岡第二中学校
3年	窓場 加津紗	長岡第二中学校
3年	浅居 真由	長岡第三中学校
3年	折菘 摩耶	長岡第三中学校
3年	菜切 景子	長岡第四中学校

### 高校生訪問団

役職・学年	氏名	備考
団長	須原 洋次	西乙訓高校 校長
副団長	人見 節子	西乙訓高校 英語科教諭
2年	中村 彩乃	西乙訓高校
2年	菊妻 奈々美	西乙訓高校
2年	浦川 耕太郎	西乙訓高校
2年	栗山 愛理	西乙訓高校
2年	斎藤 麻里奈	西乙訓高校

## 2 訪問日程

月 日 (曜日)	時 刻	概 要
4月24日(土)	12:45 13:00 15:00 16:50 10:31 14:30 23:21 0:00	長岡京市公民館 駐車場集合 長岡京市出発 関西国際空港 着 UA886便にて関空出発 サンフランシスコ空港 着 UA824便にてサンフランシスコ出発 ボストンローガン空港着 アーリントン 着
4月25日(日)	10:30 12:15 13:30 18:00	タウンホールにてグリーリー議長と面会 ウェルカム・レセプション フェンウェイパークへ出発 レッドソックス野球観戦 アーリントン帰着
4月26日(月)	8:20 8:30 9:55~10:45 11:00 12:00 14:30 14:30 17:30  8:00 17:30 20:00	オトソン中学集合(中学生) 歓迎会(メディアセンターにて) 交流会 授業体験 開始 カフェテリアにてランチ 授業体験 終了 スポーツ体験(キックボール、他) 終了  アーリントン高校集合(高校生) 授業体験 開始 *高校生は14:30まで授業体験、その後オトソン中学へ移動 終了  第一回タウンミーティング 見学
4月27日(火)	8:45 9:00 9:45 10:45 12:30 13:20 16:15 17:10 17:45	タウンホール集合 ロビンス図書館見学 コンコルド、レキシントンへ アルコット・ハウス、オールドマンス見学 ランチ(ノースブリッジにて) サイクリングツアー 開始 ミニッツマン歴史博物館にて終了 バスにてアーリントン高校へ アーリントン高校で解散

月 日 (曜日)	時 刻	概 要
4月28日(水)	8:00 8:45~9:45 10:00~11:00 11:45 12:10 12:35 13:30~14:30 14:30~15:30 16:15~18:00 18:10	アーリントン高校集合 校内ツアー アーリントン生徒とスポーツ交流 カフェテリアにてランチ 教育長ボーディと面会 ビショップ小学校へ移動 歓迎会、二年生との交流会 放課後クラスの子供達と交流会 ゲームやスポーツ (G i b b s 体育館) ホストファミリーお迎え
4月29日(木)	8:45 10:00 12:30 12:45 13:30 16:30 18:15 20:30	アーリントン高校集合 MIT (マサチューセッツ工科大学) 博物館と大学見学 MITピックアップ ランチ ハーバード大学見学と生協でお買いもの アーリントン高校到着 <b>SAKURA 祭り (オトソン中学にて)</b> 終了
4月30日(金)	8:45 10:00 14:00 14:00 17:45	アーリントン高校 集合 くじら観測船に乗船 下船 ファニエルホール見学 (グリーンリー議長案内) ショッピング アーリントン高校 帰着
5月1日(土)	17:30	ホストファミリーディ <b>フェアウェルパーティ</b>
5月2日(日)	6:00 8:11 11:47 12:30 18:00	アーリントン出発 UA869便にてボストンローガン空港出発 サンフランシスコ空港 着 サンフランシスコ市内へ移動 市内観光 (小グループにて) 夕食
5月3日(月)	7:30 11:26	ホテル出発 サンフランシスコ空港出発 (UA885 便)
5月4日(火)	15:30 16:20 18:20	関西国際空港 着 関西国際空港 出発 長岡京市役所 着

### 3 生徒感想文

#### 1. 浅居 真由 (あさい まゆ) 長岡第三中学校3年生

空港へ向かうバスの中で、「楽しみ!」「わくわくする!」という気持ちの中で、「不安」という気持ちがありました。大人もいるし友達もいるけど、やっぱり心の中のどこかに「不安」という気持ちが消えませんでした。私の勉強してきた英語は通じるだろうか、ホストファミリーと仲良く打ちとけることができるのだろうか、それより家では身のまわりの事のほとんどを親まかせにしているので洗濯は…。考えれば考えるほど私の頭の中は「不安」という2文字でいっぱいになりました。しかしホストファミリーに会ってみるとその気持ちが少しうすれました。家族の人はもちろん一つ年上のEvaはとてもフレンドリーにしゃべってくれて仲良くなることができました。私が困って相談するといつも笑顔で「No problem」と言って対応してくれて、すごく安心することができました。日本での、トランプの遊び、「七並べ」をするとき、英語で何度説明しても理解してもらえず悩みましたが、単語を並べて説明し続けると、理解してもらえ楽しんでもらうことができました。日が過ぎるにつれて単語を並べていただけの会話が文として話せるようになりました。

くつのまま生活したり、お風呂はシャワーだけといった生活習慣、時間には少しアバウトといった文化の違いに最初は戸惑ったけど、全てを完ぺきにしないといけない日本人と違い、肩の力を抜いて生活できるように感じました。出発の時、「子供は一回り成長して帰ってきます。」と言われましたが、どんな風に成長できたのか今ははっきりわかりませんが、何かが少し変わった気がします。今回このような機会を与えてくださった全ての人に、感謝できる気持ちが持てたのもその一つかもしれません。

#### 2. 伊豆 夏希 (いず なつき) 長岡中学校3年生

私はアーリントン友好訪問団に参加し、事前学習会から始まり現地での生活まで、多くの方々にお世話になったことにとっても感謝しています。特に現地では、ホストファミリーに大変お世話になりました。言葉では表せない程の感謝でいっぱいです。出発前のメールのやりとりから始まり、実際に会うまですごく緊張していました。そんな私を迎え入れてくれて、家族の一員として大切にしてもらいました。「今日はどんな日だったか?」「つかれてないか?」などと心配してもらったり、気にかけてもらいました。日本とは違う生活スタイルにもおどろきました。例えば予想以上の味つけや大きさの違いです。ホストファミリーの子供達は日本に大変興味があって、日本童謡、日本地図、けん玉、折り紙など普段しない日本文化を改めてみることができました。

日本の中学校の様子、日常生活についてなど伝えたい事、知りたい事、感じたい事がたくさん頭の中にありました。まだまだ未熟な英語だけれど、思いが伝わった時はとてもうれしかったです。伝えたいという気持ちが大切なのはと感じました。

11日間のプログラムで授業体験や観光見学など多くのイベントがありました。中でも一番心に残っているのはチェリーブロッサムフェスティバルです。長岡京とアーリントンの友好記念の桜を植樹した時、団員としてこの友好がいつまでも続き、発展してほしいと思いました。

最後にこの訪問を通して、現地の小・中高校生との交流を深めることができ、アメリカの生活を経験して、私の大切な一生の思い出になると思います。いつか又、アーリントンを訪ねたいで

す。ありがとうございました。

### 3. 植月 謙 (うえつき けん) 長岡第四中学校 2 年生

ぼくはこの訪問を通してさまざまな文化の違いを知りました。まず日本のジュースのLサイズがむこうではSサイズでした。また車は右側通行でした。コンピュータのクリックするのも日本とは逆で右でした。そしてもっとも日本とアメリカでちがいが大きかったのが、人と人の接し方でした。アメリカ人のほとんどの人は、男女問わず楽しく話しかけてきました。日本人では、そんなことなかなかすることができないな～、と思いました。またそれは人を元気にさせるものだと思います。日本人のすべての人がそんなことができたなら、きっと日本が明るくなると思います。

ぼくはこの訪問で色々な事をし、色々なことを学びました。英語がちゃんと伝わったかわからないけど、とても楽しかったです。ぼくはこのことを誇りに持って忘れずに、これからの人生を送っていきたいと思います。

### 4. 浦川 耕太郎 (うらかわ こうたろう) 西乙訓高校 2 年生

ついに、10 日間のアーリントン訪問が終わってしまいました。英語の事前学習もいれると、半年以上にもなる、長い体験になりました。しかし、訪問は終わりましたが、体験が終わったわけではない、と思います。私の家族は、7 月にホストファミリーになります。私が体感したようなホームステイを、体感してほしいと思います。でも、とりあえずは、一区切りが付きました。

この訪問は、驚きの連続でした。同じ地球の同じ人間なのに、文化が全然違いました。もちろん、文化だけではありませんでした。気候も違うし、自然の風景も違いました。どれも、日本には分からないことです。文化にいたっては、ホテルに滞在していても、学べないことをたくさん学びました。しかし、文化が違い言語も違うアメリカ人と、分かり合えないということはありませんでした。言語の違いは、確かに大きかったです。自分の伝えたいことが伝えられないときや、逆に相手が話していることの意味が分からないときも、たくさんありました。だから、お互いが理解出来たときの嬉しさは、格別でした。ホストファミリーが、質問をたくさんしてくれたので、会話には事かきませんでした。段々慣れてくると、分かる言葉も増えていきました。正直、最初の 2 日間は、長旅の疲れや、時差ぼけ、言葉の伝わらないもどかしさがあり、少しきつかったです。しかし、3 日目、一緒にホームステイを体験している人達も、大変なことを知り、気が楽になり、自分からホストファミリーに話しかけることができるようになりました。それからの生活は楽しすぎる日々でした。

私は、この訪問に行く前は、この体験に参加するのが良い (may) が、行った後は、参加しなければならない (have to) と思うほど充実した体験でした。

5. 折萩 摩耶 (おりはぎ まや) 長岡第三中学校3年生

アーリントンを訪ねて一番感じたことは、たとえ相手と言葉が通じなくてもわかろうとする、「伝えたい!!」という姿勢があるだけで、相手はその気持ちを理解してくれるから十分にコミュニケーションをとることができる、ということです。初日、本当に言葉の壁というのに間近でぶつかり、自分自身どうしたいのか、どうしたらいいのかわからなくなりました。でもホストファミリーの方達は、そんな私にもとても温かく接してくれました。自分の言いたいことがうまく伝わらなくても、最後までわかろうとしてくれました。そのおかげでだんだん相手のことも理解できるようになってきたし、自分の気持ちも片言ながらも伝えられるようになりました。ホストファミリーの方から「英語がうまくなった!!すごい!!」と言われ、すごく自信になりました。毎日ハードスケジュールながらもたくさんの友達がいる中で、とても楽しく過ごせました。毎日の夜ご飯は、全部お母さんの手作りでした。2日目、ホストファミリーと一緒にピザを作りました。日本ではあまりすることができないことを、アメリカでは本当にたくさん経験することができました。ホストファミリー日には、ショッピングモールへ行きました。日本と違ってブランドのものが、とても安くてかわいかったです。サンフランシスコでは、ケーブルカーに乗ることができました。サンフランシスコの坂をケーブルカーで走るのはとても気持ち良かったです。みんなで過ごすはじめての夜はとても楽しくて、学校の修学旅行のような感じでした。帰る日が近づくにつれて、本当に帰りたくないという想いが強くなってきました。「本当に最高の時間だった」たくさんの人に支えられたおかげでこんなふうに言える旅になったと思うので、たくさんの人に感謝しています。

ありがとうございました。

6. 菊妻 奈々美 (きくづま ななみ) 西乙訓高校2年生

毎週一回の学習会を通してこのプログラムは、私にとって少しプレッシャーを感じる事が多かった。高校生の自分よりもずっと頑張っている中学生を見て中途半端に頑張りがなくなかったし、全力で取り組みたいという気持ちがあった。その分、結果や成果が付いてきて、更にこのプログラムに熱中することが出来た。

実際アメリカに到着して、初めは実感が全く湧かなかった。現地の人々やホストファミリーと話をし、何を喋っているのかさっぱり分からなかった。これが本物だと思った。初めてのアメリカはやはり思っていた以上に厳しいものだった。自分にとって聴き取れなかったことがとても悔しくて、でも皆思っている事が一緒に、「独りじゃない、頑張ろう。」と思えた。そして、相手の眼をみて話すことの大切さがわかったし、言語で伝わらなくても気持ちで伝えることが出来、会話をすることを楽しめるようになり、会話には言語は必要不可欠だと思っていたけど、気持ちを伝えようとするための道具だと感じた。

今、日本に帰ってきて考えることは、このプログラム全体を通して自分自身を成長させることが出来たし、強くなれたと思う。しんどいことやつらいことを、最後までやり抜く意味を知った。自分はまだまだだなあと思ったしこれからもっと英語やアメリカの文化や歴史を学びたい。そしてもう一度アーリントンへ行きたいと思う。このプログラムに参加出来てとても嬉しいし、一緒に参加した仲間達との思い出が出来て幸せに思う。関わってくださった先生方や、引率して下さった先生方、本当にありがとうございました。

7. 栗山 愛理 (くりやま あいり) 西乙訓高校2年生

私がアーリントンに行って、一番思い出に残っているのは SAKURA 祭りです。この SAKURA 祭りは今年初めての試みでした。まず最初に鳴子と長岡京音頭を踊りました。長岡京音頭は現地のアーリントンの方と一緒にあって、楽しく踊ることができました。次に中学生は日本の文化である折り紙、習字、けん玉を現地の方に教え、私達高校生は浴衣を着て茶道をしました。私はこの祭りで、亭主としてお点前をすることができました。最初は緊張したけど、落ち着いてお点前ができたので良かったです。現地では茶道の先生にもお手伝いをしていただき、スムーズに進めることができました。現地の多くの人が茶道に興味を持ち、お茶を飲んでくれました。「おいしい」と言ってくれた人、「上手だったよ」「良かった」と言ってくれた人がいてうれしかったです。お点前が終わった後に、現地の人に話しかけられて、「お点前をしてくれてありがとう」という言葉をかけてもらえたのも良かったです。私のホストファミリーも喜んでくれたし、アメリカでお点前をするという貴重な体験ができ、SAKURA 祭りができて本当に良かったです。

8. 齋藤 麻里奈 (さいとう まりな) 西乙訓高校2年生

私は今回のアーリントン訪問でとてもすばらしい経験ができました。特に印象に残っているのは、アーリントン高校での授業体験です。アメリカの高校と自分の通っている日本の高校の違いを実際に肌で感じることができました。日本の学校のように、先生が教室を移動することはなく、どの教科も各教科の教室に生徒が移動していました。又、授業も生徒が数人のグループに分かれて意見交換をしたり、問題を解いたりしていました。先生が黒板に書いたことや、話したことをただ写すという授業はほとんどなく、私の高校との授業のスタイルの違いに驚きました。

自分と同じ高校生でも、日本とアメリカでは雰囲気はまったく違いました。この授業体験で知ったことをこれからの高校生活に少しでも生かしていきたいと思いました。

また、現地ではとてもたくさんの方のあたたかさを感じました。多くの方が私達を歓迎してくれました。そして、英語で話しかけられて正確に聴きとれなかったり、上手く言いたいことを伝えることができなかった時も、一生懸命理解しようとしてくれたので、私もたくさんコミュニケーションをとれるように頑張ることができました。

今後は、私たちのアーリントン訪問に関わって下さった多くの方々への感謝の気持ちを忘れず、今回学んだ経験を自分の将来につなげたいです。そして、またいつかもう一度アーリントンに行きたいと思いました。

9. 佐本 朱理 (さもと あかり) 長岡中学校2年生

私が、アーリントンに訪問団として、アメリカに行った中で、一番心に残っているのが、アメリカと日本の違いです。アメリカでは、誰もが言いますが、Yes と No がきっぱりと分かれています。自分がいやならば、No と言わないといけないし、日本の様に「どちらでも良い。」というのはありません。私は、初めの二、三日きっぱりと No とさえず、口に合わなかったものを無理に食べて、迷惑をかけてしまいました。No と言うのは、確かに勇気がいるけれど、自分の意志をはっきりと口

にする事も、アメリカのコミュニケーションなんだと肌で感じました。もう一つ、実感したことがあります。アーリントンの人は、とても友好的でした。私は、オトソン中学校で一日授業体験をさせて頂いたのですが、目が合えばみんなニコッと笑ってくれるし、「Hi!」や「Hello!」と声をかけてくれる人もいました。もし日本の中学校に同じ様に外国の人が来ても、みんなもの珍しく見つめるだけで、「こんにちは。」と声をかけられる人は少ないでしょう。私は、アーリントンの人の方から、声をかけてもらえてすごくうれしかったし、友達を作るきっかけにもなりました。この訪問に参加できて、日本だけでない文化や考え方を学ぶことができました。ただ、思うように英語が伝わらなかつたくやしきもあります。でも、この訪問は絶対に自分にとって、プラスになったと思うし、今回学んだ事を生かして、広い視野を身に付けたいです。最後に、これまで指導して下さいました先生方、チャンスを与えて下さった方、アーリントンで優しく迎えて下さったホストファミリーや出会った方々、本当にありがとうございました。

#### 10. 谷山 美香 (たにやま みか) 長岡第四中学校 2年生

あっ!という間の11日間で、毎日、時間が経つのがとても早く感じました。私の感じたアメリカと日本の大きな違いは、アメリカは全てが大きな事でした。家や庭の大きさ、特に食べ物の大きさにびっくりしました。サンドウィッチのSサイズや、ハンバーガーのSサイズでも、私の顔くらいの大きさでした。

私のホームステイ先は、大家族の家庭で、食事の時には全員そろって楽しくおしゃべりしながら食べていました。ホームステイ先の家族は、私を喜ばせようと、とても気をつけて下さいました。アメリカ人も日本人も、人に喜んでもらおうとする心、それを嬉しく思う心は同じだと思いました。

私は、まだ英語を勉強して一年なので、英語力はまだまだです。でもホストファミリーの方は、一生懸命聞いて下さり、何とか伝える事ができました。言葉を伝えようとする気持ちと、理解しようとする気持ちが一番大切なことなんだと感じました。

私は、とても有意義な11日間を過ごすことができました。私の人生の中で、とても貴重な経験をさせていただき、みなさんに感謝しています。

これから、もっと英語をしっかりと勉強し、次回海外へ行くときは、もっともっと英語力をつけて、今回分からなかった事や、話すことができなかった事を話したり、相手が言っている事を理解できるようになりたいです。

#### 11. 中川 葉那 (なかがわ はな) 長岡第二中学校 3年生

私がアーリントン訪問団に応募した理由の一つは、アメリカの中学校に行ってみたかったからです。それは、小学校のころからの夢でした。日本で普通に生活していたら、絶対に叶わない夢だなあ、と思っていました。今回のアーリントンへの訪問で、その夢を叶えることができ本当に嬉しかったです。

アメリカの中学校は、何から何まですべて大きく、何もかもが日本とは違い、ここまでとは・・・といった感じでした。それから、日本とはセンスの良さが違い、教室からロッカーから華やかな色遣いで驚きました。でも、私が一番驚いたことは、アメリカで出会った人たちは皆ノリが良く、何でもすごく楽しんでいる様に見えることです。私たちは、中学校で鳴子踊りを踊り、歌を何曲か歌いました。でも正直私は、歌を歌う前は、「みんな楽しんでくれるかな・・・もし、受けなかったらどうしよう・・・」と、少し不安になっていました。しかし、歌ってみると、全員がすごくノリノリで、笑顔で参加してくれました。私は、まさかここまで楽しんでくれるとは思ってもみなかったもので、本当に感動しました。もし、ここが日本だったら、こんなに盛り上がることはないだろうと思いました。それくらいみんな楽しそうに見えて、物事を楽しむのが上手なんだろうなあ、と感じました。私は、アメリカ人のそういうところがうらやましくも感じました。

私が、アーリントンへ行って来て学んだことは、本当にたくさんあります。アメリカにはたくさん色々な人がいました。でもその中で、文化が違い言葉も少ししか喋ることができなくても、一緒に同じ時を楽しんだり、お互いに理解し合うことはできるんだということを知りました。アーリントンに行けて本当に良かったです。私が出会い、お世話になったたくさんの人たちに感謝したいです。ありがとうございました。

## 12. 中小路 崇仁 (なかこうじ たかひと) 長岡第四中学校2年生

僕は、長岡京市の中学生代表として、アーリントンでたくさんの友達を作り交流を深めたいと思っていました。

到着してすぐに、ホストファミリーのキムさんとジェレミー君が迎えてくださいました。とても緊張したけど、何とか挨拶できました。アーリントンの人は僕達にとっても親切で、家族のように接してくださいました。

オトソン中学校では、僕と一緒にシャドーしてくれる男の子がいました。ルーカス君です。授業は当然英語です。僕が首をかしげていると、彼は丁寧に解説をしてくれました。また、彼は多くの友達を紹介してくれました。キックベースボールでは、みんなと汗を流すことができ、楽しい時間を過ごしました。文化交流の書道コーナーでは、筆ペンを使って漢数字や簡単な日本語を書いてもらい、少し日本文化をアメリカに伝えることができました。

マサチューセッツ工科大学(MIT)を見学しました。この大学はノーベル賞受賞者を多数出しているアメリカの名門大学だそうです。研究室の卓球台には魚が投影されていて、ボールが来ると魚が逃げる映像がプログラムされていました。コンピューターや人工知能の研究などが進んでいるのだな、と思いました。将来、僕はこんな大学で研究してみたいです。アーリントンの訪問は、あっという間に過ぎました。最後のフェアウェルパーティでは、とても感激しました。ホームステイでお世話になったキムさんやジェレミー君との別れを惜しみながら、ルーカス君など多くの友達に日本で会う約束をしました。僕は、友達をたくさん作る目的を達成することができたと思います。色々な人に出会い、自分の視野を広げることができました。この訪問で準備から帰国まで、出会った友達や先生そして支えてくださった多くの人々に感謝します。ありがとうございました。

13. 中村 彩乃 (なかむら あやの) 西乙訓高校2年生

私が今回アーリントンを訪ねて感じた事は、ホストファミリーの優しさと国や文化は違っても気持ちは伝わるという事です。

私達は夜中にアーリントンに着き、すぐに自分のホストファミリーのもとへそれぞれ分かれましました。最初はとまどいと不安でいっぱいでもどうしていいかわからず、思っていたように自分から積極的にコミュニケーションをとることができませんでした。しかし、私は少しかぜをひいてしまい、それを伝えようと自分の知っている単語や身振り手振りでアピールしました。するとホストファミリーは分かろうと目を見て一生懸命聞いてくれました。そして温かい飲み物をくれ、温度調節ができるホットブランケットをベッドにひいてくれ、使い方をていねいに教えてくれました。私はそのことがすごく嬉しかったです。同時にホストファミリーの優しさと気持ちは伝わるということがわかりました。それから私はホストファミリーに積極的に話しかけることができるようになりました。

今回の訪問は本当に貴重な体験だと思います。暮らしてみないと分からない事がたくさんあったし、学校の授業では学べない事もたくさんありました。11日間、毎日がとても充実したものになったと思います。私はアーリントンでホームステイして少し成長できた気がします。また、もっと英語が上達して楽しく会話できたらいいなと思います。

14. 菜切 景子 (なきり けいこ) 長岡第四中学校3年生

私は小さい頃から「アメリカにホームステイしに行く」という夢がありました。そんな夢が叶った今、私にとってこの十日間は一生の宝物です。今も頭の中に鮮明に残るたくさんの思い出を思い出す度、アーリントンの人々への感謝の気持ちや自分の伝えたいことが伝えられなかったくやしき思い、まだずっとアーリントンにいたい気持ちなど、本当に沢山の事を考えさせられます。私が特に楽しかった出来事は、オトソン中学校へ行った事です。初めは不安な気持ちでいっぱいでした。けれど、沢山の子が気軽に話しかけてくれて、新しい友達がいっぱいできました。折り紙や五円玉などをあげるとすごく喜んでくれて、次々に欲しいと言ってくれました。沢山の人と話したかったし、日本の文化も色々な人に知ってもらいたかったので、二つの目標が同時に叶ってすごく嬉しかったです。又ホストファミリーと過ごした日々も忘れられません。未熟な英語でしたが、沢山楽しい会話をすることができました。初めは、住む所も違う、環境も違う、習慣や文化も違う、そんな別世界の中でとまどいを隠しきれませんでした。けれど実際話してみたり、目で確かめてみたり、肌で実感するたび、文化の違いなどに対する驚きや、伝えたいことが伝わったときの喜びを心の底から感じる事ができました。現地の人たちとの交流は本当に楽しくて、十日間はあっという間でした。この経験は絶対に今後生かされると思います。この先、自分の道を歩んでいく中でこの経験が道を開いてくれると思います。そんな貴重な経験ができて、本当に良かったし、沢山の人々の感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。もっともっと英語を上達させて、またアーリントンへ行ってみんなに会いに行きたいです！

#### 15. 福田 拓真 (ふくだ たくま) 長岡中学校3年生

僕はこの十日間でたくさんのことを学びました。それは言葉や文化が違って、それを知ろうとすることによって、感覚で理解することができるということです。僕は正直、ホストファミリーの人たちに会うまで、自分の伝えたいことや、向こうが伝えようとしていることが通じずにパニックに陥るのではないかと、ただただ心配でした。しかし、実際向こうに行ってみると、とてもやさしいホストファミリーの人たちが温かく迎えてくれ、心配が安心に変わったことを覚えています。

僕のホームステイ先の息子には、とても仲の良い友達がいる、その子も一緒に泊まっていました。その二人は冗談がとっても大好きで、いつも何かを言っては笑っていました。僕にはそれが完璧に分かったわけではありませんでしたが、その意味を知ろうとして二人の会話の簡単な単語やジェスチャーをつなぎ合わせてなんとか理解し、一緒に笑うことができました。そしてその作業に慣れたとき、二人の冗談をみんなで笑うことのできる嬉しさが一気に押し寄せてきました。

そのように生活して慣れたことはたくさんありましたが、最後まで慣れなかったことがありました。それは日本では食事前と食後に必ず言う言葉、「いただきます」と「ごちそうさまでした」を言わずに食事をすることです。僕は初め、あいさつなしで食べ始めることに抵抗がありました。だからホストファミリーの人たちには分からないと知っていながら、日本語で「いただきます」「ごちそうさまでした」を言っていました。

アメリカの良いところはたくさんありました。初めての人に対してもフレンドリーなところや、物事ははっきりと伝えることなどです。日本にもアメリカにも、それぞれの良いところがあるということが分かりました。今後もアメリカと日本の交流を深め、お互いの国を理解できれば、すばらしい事だと思います。僕たちがそのかけ橋の一部となって、それが実現すればよいと願っています。今回の訪問では、いろんなところを見学したり、いろんなことを体験してきました。その中でも一番良かったのは、ホームステイをしてホストファミリーの人とたくさんコミュニケーションをとれ、友達ができた事です。その事が僕にとっての一番の宝物となりました。そして今回のホームステイは大成功だと思います。また、僕達を支えてくれた人たちにとっても感謝しています。本当にありがとうございました。

#### 16. 松村 萌華 (まつむら もえか) 長岡中学校3年生

私は、この10日間の研修を終えてたくさんことを学びました。私は、小学生の頃から英語に興味があって、ずっとホームステイをしたいと思っていました。だから、その夢が叶って本当に嬉しかったし、それに日本の代表として行くんだから、日本の文化を伝え、そしてアメリカの文化も学んでこようと思いました。

ホームステイは、普通にアメリカに旅行で行って、ホテルに宿泊するということとは違う経験になりました。ホームステイは、昼は訪問団の人達と行動しているけど、それ以外はずっと一緒に過ごしているので、嫌でも英語で話していることを理解して答えたり、自分からも英語で話さなければいけません。だから最初は、理解できなくて困ったこともあったけど、日がたつにつれて、だんだん理解できるようになり、自分からも積極的に話していけるようになっていきました。そして、本場の英語も聞いてたくさん勉強になりました。それに、たくさんプログラムもあり、たくさん

の初めての経験ができてとても楽しかったし、たくさんのアーリントンの方と交流ができて、良い思い出もいっぱいできて嬉しかったです。

アーリントンでは、たくさんの方が私達を親切に迎えてくれました。アーリントンには親切な人がたくさんいて、私はアーリントンが大好きになりました。

アーリントンでは、たくさんの人達と話して、自信がたくさんつきました。その事を、私の身の周りのことから生かしていきたいです。そして、またアーリントンに行って、もっとたくさんの経験をしたいです。

#### 17. 窓場 加津紗 (まどば かづさ) 長岡第二中学校3年生

今回私は、アーリントンに行って来てとてもすばらしい体験と思い出がたくさんできました。その中でも一番楽しかったのは、ホストファミリーデーでした。私とホストファミリーは、“コンコードリバー”にカヌーをしに行きました。とてもきれいなところで、野生の鳥を間近で見ることができました。また、ホストファミリーのロバートとポートと一緒に漕いでコミュニケーションをたくさんとれた事が何よりうれしかったです。ホストマザーとは2人でショッピングに行きました。2人で一緒に服を選んで楽しみました。ホストファザーはとてもやさしくて、毎朝私が6時に起きるころには、朝ごはんを作って待っていてくれました。夜ごはんはホストファザーが作っていてくれて日本とは違うのでびっくりしましたが、とてもおいしくて温かい気持ちが料理にこもっていました。

鳴子の踊りをがんばりたいと言っていた私は、一つも失敗がなく踊りきることができアーリントン訪問団のみんなと楽しく踊れました。アーリントンの方も盛大な拍手を贈って下さり、とてもがんばって練習したかいがあったと深く実感できました。長岡京音頭も、もちろん楽しく輪になって踊りました。

本当にあっという間で、最後には一年ぐらいいたいという気持ちでいっぱいでした。きっとそれは、アーリントン訪問団のみんなも同じ気持ちだと私は思います。

私は、来年アーリントン訪問団に入りたいという子に、こんなすばらしくたくさん学んで来たんだよ、という事を自慢したいと思っています。本当に行けてすごくよかったと心の奥底から深く思いました。

#### 18. 宗像 美月 (むなかた みづき) 長岡中学校2年生

まだアーリントンでの生活に慣れていなかった2日目、私達はオトソン中学校へ行きました。楽しみでしたがうまく交流できるか不安でした。

オトソン中学校で私達はよさこいソーランをおどったり、歌をうたったりしました。オトソン中学校の先生や生徒は大きな大きな拍手で明るく喜んでくださいました。また、心のこもった歌で私達をあたたく迎えてくださったので、とてもうれしかったです。

シャドーイングが始まりました。授業では、教科書やプリント、黒板の英語が難しくて分からなかったり、話のスピードが私にとって速くてなかなか聞きとれなかったりしました。けれど、何度も何度も聞き返しても、どの先生も生徒も、明るく丁寧に教えてくださいました。私はとてもうれしかったです。

オトソン中学校での授業体験以外でも、たくさんの人々が私達を明るく迎えてくださいました。たくさんの方を丁寧に教えてくださった中学校の先生や生徒の方々、言葉に表せないほどお世話になったホストファミリーの人など、アーリントン訪問で出会ったたくさんの方々に本当に感謝しています。

アーリントン訪問の毎日が、とても充実していました。この経験はきっと私の人生の宝物になるだろうし、きっと将来に大きなプラスになると思います。

私はアーリントンに行けて本当に良かったです。

#### 19. 八木 剛至 (やぎ つよし) 長岡中学校3年生

僕は今、日本にいる。だが、今なおアメリカでの記憶が鮮明に蘇ってくる。それは、この11日間の記憶がとても強く、決して忘れることのできない経験だったからだろう。

今回のアーリントン訪問は僕にとって初めての海外渡航であった。そして、人生初のホームステイに『コミュニケーションの成立』を目標に、前向きに挑んだつもりだった。だが実際は不安と緊張を抑える事で精一杯だった。

しかし、そのような感情も現地の人々の温かい心遣いに、いつの間にかどこかへ消えていた。ホストファミリーをはじめとする多くの人々は、まるで僕たちを家族であるかのように接してくれた。僕はその優しさに感動を覚えた。オトソン中学で出会った多くの友達も、僕の話を一生涯懸命に聞いて、僕が理解できるまで会話に付き合ってくれたのだ。その時、僕は間違いを恐れて正しいと確信できるまで黙って考えてはいけない事に気づいた。そうする事は、相手に、僕が何を考えているのか理解できず困るはずだ。それよりも、単語だけでも良いので相手に伝えようと言葉を繋ぐほうが、自分も楽な気持ちで話せる上にスムーズな会話ができる事を学んだ。

今回の訪問で、アメリカを一部ではあるが知る事ができた。人々は皆、自分の主張を伝えながらも相手を気遣う思いやりの精神を心がけていた。また、街や学校や家の中でも人々は挨拶を欠かさず、常に人との繋がりを大切にしている。このような、人との交流に対する積極性を、日本人も持たなければならぬ。それが、訪問を終えた僕の思いだ。

今回の訪問は、僕の物事に対する考え方の幅を広げてくれた。このような素晴らしいチャンスを作ってくくださった皆様に、心より感謝の気持ちを伝えたい。そして、最高の時間をくれた日本とアメリカの仲間達を僕は決して忘れない。みんなありがとう！

#### 20. 湯川 和志 (ゆかわ ひさし) 長岡第四中学校2年生

ぼくがアーリントンから帰ってきて一番思ったことは、歌やダンスをした時や話しているときのリアクションがとても大きくて、とても気持ちよかったということです。学校の見学をした時は、初めて会ったのにとってもたくさんの方が話しかけてくれて、やっぱり日本と違っていいなと思いました。ホストファミリーの家がとても大きくて、とてもおどろきました。それに日本と違って、家と家のあいだがとても広くてとてもおどろきました。途中一日だけみんなとちがうスケジュールになって、ホストファミリーの子供が行っている高校の見学に行きました。そこでは一つ一つ教科ごとに校舎が分かれていて、とても広い場所でとてもすごいなあとと思いました。サイクリングに行った時は長岡京市では見ないサイクリングロードがあっていいなあとと思いました。サンフランシスコ

の空港での自由行動の時バーガーキングという店でハンバーガーを食べた時、大きさが全部大きくてとてもおどろきました。ジュースなんかSサイズが日本のLサイズと同じ大きさでとても得した気分でした。きっとこれじゃあ日本で食べる時は、めっちゃ損した気分になりそうだなあと思いました。帰国する一日前にパーティーがありました。会場がふつうの人の家だったのでとてもおどろきました。日本じゃとうていできない事だと思いました。サンフランシスコについては、グループで行動しました。初めにピア39と言う所に行っておみやげをたくさん買って、それからチョコレートパフェを食べました。そのパフェがとても大きくて、アメリカは日本と比べていろいろと大きいなあと思いました。日本に帰ってきたらとても暑くてとてもアメリカに帰りたくなりました。ぼくはこのアーリントン訪問団としてアメリカに行けてとても良かったと思いました。

## 2.1. 和田 千佳 (わだ ちか) 長岡中学校3年生

私にとってアーリントンに行くということは、初めての海外、初めての飛行機、初めての野球観戦、初めての乗船とたくさんの新しい経験をするということでした。アーリントンで学んだ全てのことが私にとってとても貴重なことになりました。

その中で私が一番心に残っていることは、ホストファミリーの人と昔遊びや日本の文化を一緒に学んだことです。

まず最初にしたことは折り紙です。私は鶴しか折ることができなかったので、鶴の折り方を教えてあげました。日本語の説明書を見ながら英語で説明しました。わからない語句がでた時は、電子辞書で調べながら教えてあげました。ゆっくり話をしながらしていたので時間がかかったけど、完成したときの達成感はとても大きなものでした。そしてホストファミリーの人が笑顔でありがとうと言ってくれた時は本当にうれしかったです。

お手玉も一緒にしました。アメリカではジャグリングボールがあるので、「これ私にもできる」とホストファミリーの人が披露してくれました。私より上手だったので、教えてもらうという逆の立場になってしまいました。その結果、私は上手になれました。

私は昔遊びを教えている時に、言葉が上手く通じなくても、ジェスチャーや身振りで伝えられるということがわかりました。困った時には絵に描いて表現したり、言葉だけの世界じゃないと思いました。

アーリントンと長岡京市。距離はあるけど、関係はとても近いです。やっぱり姉妹都市だなと思いました。普通の海外旅行では学べない、ホームステイだからこそ学べたことがたくさんあります。私はこのホームステイという経験を生かしてこれからの人生を歩んでいきたいです。今回、関わりを持った全ての人達に、「ありがとう」と言いたいです。



# アーリントンだより



長岡京市教育委員会 教育部 学校教育課 No.1

平成 22 年 4 月 24 日(土)13 時に、小田豊長岡京市長をはじめ、多くの方々の見送りのもと、長岡京市を出発しました。そして、ほぼ 24 時間後にアーリントンに到着しました。長旅ではありましたが、全員元気に過ごすことができました。

時差の関係で1日戻ることになるのですが、4月25日(日)より、アーリントン訪問のプログラムがスタートしました。

## ☆☆ 今日のイベント ☆☆

グリーンリー議長さんの歓迎会への参加とレッドソックスの野球観戦



ロビンス図書館にて、たくさんのホストファミリーも参加した歓迎会でした。

グリーンリー議長さんからは、ユーモアたっぷりに歓迎のスピーチをしていただきました。



本島団長のお礼の言葉のあと、グリーンリー議長からアーリントンと長岡京と表裏に書かれたTシャツを訪問団員一人一人にプレゼントされました。

# メジャーリーグ観戦!

ボストンレッドソックスとボルティモア・オリオールズの試合を観戦しました。試合は、7対6でオリオールズが勝ちました。本場大リーグの迫力を感じることができました。





# アーリントンだより



長岡京市教育委員会 教育部 学校教育課 No. 2

少し肌寒い毎日が続く、アーリントンでの2日目の活動を報告します。2日目のメインイベントは、歓迎会と授業体験、そして、交流会でした。中学生はオトソン中学校で、高校生はアーリントン高校でお世話になりました。

☆☆ 4月26日のイベント ☆☆

オトソン中学校やアーリントン高校で、授業体験および交流会



まずは、オトソン中学校のティム校長先生からメッセージをいただきました。

その後、昨日もお世話になったグリーンリー議長から、再度歓迎の言葉をいただきました。



長岡京市からは、本島団長と菜切景子さんが挨拶をした後、16名の中学生による「鳴子踊り」、「長岡京音頭」、「歌」を披露！

歓迎会に参加をしたオトソン中学校の生徒たちも、コーラスを発表し、大変盛り上がった交流会になりました。



授業にも参加をしました。もちろん、英語だけの授業なので、生徒たちは日本での授業以上に集中して聞いていましたが、普段の倍以上疲れた表情の生徒もいました。



午後からは、芝生のグラウンドでキックベースに男女を問わず寒い中ががんばりました。



午後8時から開催されたタウンミーティングに招待され、長岡京市からの訪問団として紹介され、大きな拍手をもらいました。今日も、友好を深めることができた有意義な1日となりました。



# アーリントンだより



長岡京市教育委員会 教育部 学校教育課 No. 3

今日は、残念ながら小雨の1日になりました。しかし、生徒の皆さんは、雨にも負けず、本日のプログラムに積極的にチャレンジしました。

☆☆ 4月27日のイベント ☆☆

ロビンス図書館やアスコット・ハウスの見学、および、サイクリング



図書館の見学に入る前に、昨年小田市長が植樹された桜の前で記念写真を撮りました。



ロビンスさんが創設された図書館を見学しました。日本のマンガもあり、少しびっくりしました。



自転車に乗り、アメリカ戦争のきっかけとなった地をまわり、当時の様子を、身をもって体験することができました。



## アスコット・ハウス見学!

若草物語の舞台となったアスコット・ハウスを見学しました。





# アーリントンだより



長岡京市教育委員会 教育部 学校教育課 増刊号

昨日は、中学生のオトソン中学校での活動を報告しました。高校生は、アーリントン高校での活動に参加していたため、増刊号として本日報告します。

☆☆ 4月26日 高校生のイベント ☆☆  
アーリントン高校で授業体験および交流会



西乙訓高校の生徒も、アーリントン高校の授業を体験しました。アーリントンの高校生とお互いの高校のことについて、交流ができました。

これまで学習してきたことを生かして、自分の気持ちを言葉で伝えようと思いました。





# アーリントンだより



長岡京市教育委員会 教育部 学校教育課 No.4

4月28日も、小雨が降る中での活動となりました。今日は、アーリントン高校とピショップ小学校を訪問しました。どちらも、鳴子踊りを披露し、各学校から厚い歓迎を受けました。



☆☆ 今日のメインイベント ☆☆

アーリントン高校とピショップ小学校で交流会



アーリントン高校で



ミュージックテクノロジーという授業を体験。どの生徒もプログラムを組み、音楽を見事作成！



交流会では、鳴子踊りを披露。教育長さんから、一人一人に記念品が手渡され、また、直接生徒と意見を交換する場面を作ってください、大変有意義な交流ができました。



ピショップ小学校で



ピショップ小学校でも鳴子踊りを披露。小学校からは「桃太郎さん」等、日本の歌が合唱され、楽しい交流の時間を過ごすことができました。

また、この後、生徒たちは2年生の学級で、けん玉コース、習字コース、折り紙コースの指導者として、かわいらしい児童に楽しく指導を行い、日本の文化を紹介する良い機会になりました。





# アーリントンだより

長岡京市教育委員会 教育部 学校教育課 No. 5

今日は、昨日とは違って変わっていい天気でした。本日は、MIT(マサチューセッツ工科大学)とハーバード大学の見学をしました。また、夜には、今年初めて行われた桜祭に参加をしました。

☆☆ 4月29日のイベント ☆☆

MIT(マサチューセッツ工科大学)とハーバード大学の見学と桜祭参加



MITは、大学の建物の中に、遊び心たっぷりの造形物が展示されており、こういう環境の中から、様々なアイデアが出てくるのだろうと感じました。



## マサチューセッツ工科大学見学!



世界的にも有名なハーバード大学の広いキャンパスに驚き! 図書館や創立者の像の前で、興味深いお話を聞かせてもらいました。

## ハーバード大学見学!



桜祭のはじめに、ティム校長、辻領事館、本島団長による植樹が行われました。



桜祭のプログラムは、グリーリー議長の挨拶に引き続き、本島団長挨拶、ビショップ小学校の歌、長岡京市から鳴子踊り、長岡京音頭、オトソン中学校の合唱が披露。最後には、オトソン中学校と合同で合唱を行い、桜祭を盛り上げることができました。



生徒たちは、書道、けん玉、折り紙のコースに別れ、楽しく指導。また、高校生により、お茶が立てられ、アーリントンの人たちからもそれぞれの活動に大きな拍手がおくられていました。



# アーリントンだより

長岡京市教育委員会 教育部 学校教育課 No.6

今日は、天気もよく、絶好の鯨ウォッチングの日となりました。午後からは、ボストン市内でショッピングを楽しみました。

☆☆ 4月30日のイベント ☆☆  
鯨ウォッチングとボストン市内観光



間近でくじらか!

現地に着くまで、鯨が姿を見せてくれるか、心配でしたが、みんなの思いが鯨に伝わったのか、何度も鯨の姿を間近でみることができ、大変ハッピーな日でした。

ボストンめくいを!



ボストンは、アメリカでも五大都市のひとつとして数えられ、高層ビルも多く、自然と人間が調和した都市であるように感じました。



ほとんどが、ボストンの街並みの写真に…。カメラマンも追いつけられないほど、生徒はたくましくショッピングを楽しんだということでしょう!? …編集者より…



## Ⅱ 来訪の部

## Speech by Ms. Meagan Bassett and Mr. Justin Bourassa

To the citizens of Nagaokakyo - students, teachers, administrators, host families, relatives, and friends, new and old:

Thank you so much for welcoming us to your beautiful city! We are thrilled and honored to be here in Nagaokakyo, having traveled all the way from Arlington, Massachusetts, and though the weather is hot, your hospitality and generosity in hosting us for the next eleven days makes us feel nice and cool!

Our cultures have so much in common, it is often hard to remember how different they can be. Despite a language barrier, many things about Japan and the United States are similar. When it comes to sports, we both share a love of baseball, especially Daisuke Matsuzaka. Both of our World Cup teams advanced to the Round of 16 and fell too early this year. As far as entertainment goes, both our countries have a rich history in filmmaking and literature. And we both lead the world in various education and technologies. In a world where that very technology makes it easy to simply send an e-mail or a facebook message to someone literally half way around the world, our cities represent the best and truest part of human interaction - face to face, real world friendship. While e-mails can be lost or deleted, the memories that we make here will last for an eternity, helping all of us become better ambassadors to not only Arlington and Nagaokakyo, but better ambassadors to the whole world, and this is why it is so important to value our relationship as sister cities, and continue celebrating our global connection and friendship.

We were so excited to host our sister and brother exchange students and teachers in April and now we are even more excited to be here, taking advantage of the unique opportunity to see a new part of the world. For most of us, this is our first visit to Japan. Knowing how strong the relationship is between Arlington and Nagaokakyo, I am certain that for all of us, this is the first of many trips to Nagaokakyo. We are excited to experience all that Nagaokakyo has to offer - we cannot wait to try all of the delicious cuisine, visit local schools and play badminton, go swimming, play water polo, and attend English classes. We look forward to learning as much Japanese as we can with our host families, and to visiting all of the rich cultural attractions that call Nagaokakyo home as well. Most importantly, we eagerly anticipate the time that we will spend with each other over the next week and a half, and we are excited to take in as much of your lovely culture and country as we can while we are here.

After all, for the students, teachers, and parents on this trip, this experience with you is something we will never forget, and the friendship between our two cities will be one that flourishes much like the cherry blossoms that were planted outside of Ottoson Middle school in Arlington just a few weeks ago.

On behalf of all the students, adults, teachers, administrators, and the entire town of Arlington, thank you again for the warm welcome you have extended us here. Thank you for hosting us, and thank you for continuing a fantastic tradition of sharing our two great cultures with each other so that we can make the world in the future a better, more understanding place for all of humanity. We look forward to an exhilarating and exciting eleven days here in Nagaokakyo!

## ご挨拶

メーガン・バセット、ジャスティン・ボラッサ（アーリントン高校教員）

長岡京市民のみなさん、生徒や先生達、ホストファミリーのみなさん、新しい友人や古い友人達、そして関係者の皆さん。この美しい長岡京市に私たちをお迎えしていただきありがとうございます。私たちは、どきどきしながらもはるばるアーリントンからここへ来られたことを光榮に思います。

気候はとても暑い時期ですが、これからの 11 日間私たちを受け入れてくださる寛大なおもてなしは暑さを吹き飛ばしてくれるでしょう。

私達の文化はとても似通っています。異なっているのがどこなのかを考える方が大変です。言葉の壁はありますが、日本とアメリカはたくさんの共通点があります。

スポーツにおいては、私たちは共に野球、とくに松阪大輔が大好きです。そしてワールドカップでは、共にベスト 16 まで勝ち進みました。今年はあまりにも早く過ぎていくように感じました。

エンターテイメントに関しては、私達の国は共に、映画界や文学においても深い歴史を持っています。そして私たちは、教育やテクノロジーなどさまざまな分野において世界を導いてきました。

技術の発展により、地球の裏側に住んでいる人たちへ簡単に E メールやフェイスブックメッセージを送ることができるようになりました。そんな中、長岡京市とアーリントンは、人間同士の交流の要である直接の触れ合いを実践している、真の友好交流の代表者といえるでしょう。E メールは消えてしまったり届かなかったりしますが、私たちがここで作る思い出は永久に残ります。アーリントンと長岡京市だけでなく、世界中の人々がより良い大使になるためのお手本となります。だからこそ、この姉妹都市としての関係を高く評価し、世界中の人々が繋がり友情を繋げていくことが重要です。

私たちは 4 月に長岡京市の生徒や先生達をお迎えしわくわくしながらホストさせていただきましたが、今ここにきて、世界の新しい部分を見る機会を与えていただき、あのときよりももっとももっとわくわくしています。

私たちのほとんどは今回日本にくるのは初めてです。アーリントンと長岡京市の強い絆を知り、私は、この旅がこれから何度も来る長岡京市への最初の旅になることを確信しています。

おいしい食べ物への挑戦や学校訪問、バドミントンをしたり泳いだり、水球をしたり英語のクラスに参加したり、長岡京市で経験できるすべての事がとても楽しみで待ちきれません。

ホストファミリーの皆さんにできるだけたくさん日本語を教えてもらい、長岡京での魅力的な文化に触れられることを楽しみにしています。もっとも大切なことは、私たちがこれからの 10 日間をみなさんと一緒に過ごし、滞在中できるだけ多くの日本のすばらしい文化を経験することです。

最後になりましたが、この旅行に参加している学生、教員、保護者にとってこの経験は決して忘れられない思い出になるでしょう。そして両市の友情が、オトソン中学校に植樹された桜の木が数週間前に花開いたように、ひとつになるでしょう。

アーリントン市と団を代表し、私たちを温かく迎えていただいた皆さんに今一度感謝申し上げます。私たちがホストしていただきありがとうございます。二つのすばらしい文化をお互いに学び合う機会を設けていただいたことに感謝いたします。そして私たちは人類が住むすべての場所をよりよく理解し、よりよい未来を築いていくことができるでしょう。

長岡京市で過す 11 日間がとてもすばらしいわくわくする日々でありますように！！

1 アーリントン代表訪日団員名簿

氏 名		学 年
1. Mr. Jeremy Patrick Norberg-Bohm	ジェレミー・ノーバーグ・ボーム	10 (高1)
2. Mr. Samuel William Berard	サミュエル・ベラード	8 (中2)
3. Mr. Aidan Isaiah Pierce Wilcox	エイデン・ウィルコックス	10 (高1)
4. Mr. Jeremy Adam Nass	ジェレミー・ナス	10 (高1)
5. Mr. Eleuterio L. Rosa	エルテリオ・ロサ	8 (中2)
6. Ms. Bridget Rose Kelly	ブリジット・ケリー	8 (中2)
7. Ms. Margot Ysabel Hardcastle	マーゴット・ハードキャッスル	8 (中2)
8. Ms. Emma Maeve Kuper	エマ・クーパー	8 (中2)
9. Mr. Samuel Taylor	サミュエル・テイラー	10 (高1)
10. Ms. Olivia Smith Ambo	オリヴィア・アンボ	10 (高1)
11. Ms. Devynn Nicole Diggins	デヴィン・ディギンス	9 (中3)
12. Mr. John Griffin	ジョン・グリフィン	Adult (保護者)
13. Mr. Brendan Griffin	ブレンダン・グリフィン	7 (中1)
14. Ms. Meagan Anne Bassett	メーガン・バセット	Chaperone (教員)
15. Mr. Justin Bourassa	ジャスティン・ボラッサ	Chaperone (教員)
16. Mr. Matthew Pisano	マシュー・ピサノ	20 yrs. (インターン)
17. Ms. Yuran Tsuchida	ユーラン・ツチダ	6 (小6)
18. Ms. Minjin Tuschida	ミンジン・ツチダ	Adult (保護者)

## 2 訪日日程

月 日 (曜日)	時刻	概 要
7月7日 (水)	15:30	UA855 便にて関空 着
	19:00	長岡京市役所 到着 (予定)
7月8日 (木)	8:45	市役所前 集合
	9:00	市長への表敬訪問
		市役所内 見学 (議会場、教育委員会)
	10:00	光明寺見学
	12:00	回転寿司小町 にて昼食
	13:00	長岡天満宮
	14:00	イズミヤ見学
	16:00	ウエルカムパーティ (市民ホール)
	17:30	終了
7月9日 (金)	8:30	長岡第三中学校集合
		交流プログラムに参加
	15:15	授業終了後清掃とホームルーム
	15:40	クラブ活動参加
	17:10	クラブ活動終了
7月10日 (土)	終日	ホストファミリーディ
		乙訓高校水球・バドミントン体験
		(9:00~11:30)
7月11日 (日)	終日	ホストファミリーディ
7月12日 (月)	9:00	市役所集合
	9:45	金閣寺
	11:30	清水寺とショッピング (11:30 風雅堂)
	16:30	市役所到着

日付	時刻	内容
7月13日(火)	8:30	第五小学校集合
		交流プログラムに参加
	12:35	給食
	13:10	第五小学校出発(市バス)
	13:30	西乙訓高校到着
		交流プログラムに参加
	17:00	西乙訓高校の活動終了
	19:00	カラオケナイト!!
7月14日(水)	9:50	ムラタ製作所正面玄関集合 見学
	11:00	JRで大阪観光
	12:00	大阪城
	13:00	近辺で昼食(0BP ツインタワー 燦)
	16:00	心齋橋～難波 ウォーク
	18:00	梅田出発
	18:45	市役所前 到着
7月15日(木)	9:00	JR 長岡京駅 集合
	10:30	奈良観光(平城宮跡、東大寺)
		近辺で昼食
	15:00	奈良出発
	16:30	長岡京駅 到着
7月16日(金)	9:00	市役所 集合
	10:00	太秦映画村
	12:00	嵐山で昼食(レストラン嵐山)
	13:00	岩田山モンキーパーク
	14:45	数珠ブレスレット作り(レストラン嵐山)
	16:10	市役所 帰着
	18:00	お別れパーティ(サントリーゲストルーム)
7月17日(土)	13:00	市役所駐車場 集合
		UA886便にて関空より出発

## Speech by Mr. Jeremy Nass

Hello Nagaokakyo. My name is Jay, and I am one of the travelers on the Arlington/Nagaokakyo 2010 trip.

I think I can speak for everyone on this trip by saying that I am totally thrilled and excited to be here. This exchange program is a wonderful opportunity for ordinary people to get to know foreign cultures, learn new things, and meet new people.

On this trip, I hope to gain a stronger knowledge of what life is like on the opposite side of the Earth, and I look forward to being able to tell my friends back in Arlington about what Japan is like.

I also hope to gain a strong bond with the family I am staying with. I am very grateful to all of the families who are hosting us. It is a great honor that you all are allowing us to stay in your homes, and we are all very thankful.

Another thank you goes to all of the coordinators, who have worked very hard to put together a trip that will leave a meaningful impression on everyone involved. I am looking forward to having a magnificent trip, and I expect to enjoy myself greatly along with my peers and newfound friends here in Japan.

## 生徒挨拶

ジェレミー・ナス（アーリントン代表訪日団生徒）

こんにちは。私はアーリントンからの長岡京市訪問団の一人、ジェイといいます。

私は、ここへくるのに、本当にドキドキワクワクしていました。この交換プログラムは、私達にとって外国の文化を知り、新しいことを学び、新しい人々と出会う素晴らしい機会です。

この旅行では、私は地球の反対側に住む人々の生活がどんなものなのかをしっかりと学び、アーリントンに帰ってからは、日本がどんな国だったかをわたしの友人達に話して聞かせるのをたのしみにしています。

また、私を受け入れてくれるホストファミリーとしっかりと絆を結びたいと思います。そして私達を受け入れてくださるすべてのホストファミリー達に感謝申し上げます。

最後に、この旅に参加するそれぞれのメンバーの思いをかなえるため、一生懸命計画してくださったコーディネーターのみなさんに心から感謝いたします。

この旅が素晴らしく、また私の仲間や日本で出会う新しい友人達と楽しい時が過せることを楽しみにしています。

## Farewell Speech by Ms. Meagan Bassett and Mr. Justin Bourassa

Good evening everyone,

When we first arrived at Kansai Airport ten days ago, we were very tired. We had just traveled a third of the way around the world to visit our sister city.

When we arrived in Nagaokakyo, we were stricken with the city' s beauty, we were humbled by your hospitality, and we were excited to begin our time with our host families.

Since then, we have visited hot springs, which we don' t have near Arlington. We have traveled to Osaka Castle to absorb some Japanese history, and we enjoyed an evening of karaoke in its native country.

We learned some Japanese, as we will share tonight, and we taught some English. We ate delicious sushi, sashimi, takoyaki, yakitori, onigiri, okonomiyaki, and so much more. We took thousands of photographs, tried origami, and shared in fascinating school lessons related to Japanese history, like shodo-o, sado, kendo, and other club activities.

While we shared so many wonderful experiences, the things that we will keep with us are far more valuable than the souvenirs we will take home - our memories. We will never forget the company and hospitality you offered us in your homes and families.

And even though we are leaving, we realize that without leaving Nagaokakyo, we would have no reason to come back. Arlington and Nagaokakyo are sister cities, separated by almost 9000 miles, but all of us, the people of both Nagaokakyo and of Arlington, can feel comfortable calling both cities our home.

We offer you a thousand thank you for all of your open homes and hearts, and just like we cannot wait for you to come home to Arlington, we already cannot wait to come home to Nagaokakyo again. Thank you all so very much and see you very soon!

Arigato gozaimasu!

## お別れの言葉

メーガン・バセット、ジャスティン・ボラッサ（アーリントン高校教員）

10日前、私達が関西空港に到着したときは、とても疲れていました。私たちは姉妹都市を訪問するために、地球の三分の一を飛んできたからです。

長岡京市に着いて、私たちは街の美しさに心打たれました。みなさんのもてなしに心打たれ、そしてホストファミリーとともに過ごす時間のはじまりにわくわくしました。

それからは、アーリントンにはない温泉に行ったり、大阪城では日本の歴史に触れ、その発祥の地である日本でカラオケを楽しみました。

後にお披露目しますが、日本語も勉強し英語を教えました。お寿司やさしみ、たこやき、焼き鳥、おにぎり、お好み焼きなどいろいろなものを食べました。写真もたくさんとりました。折り紙もしましたし、日本の歴史に関する授業、書道や茶道や剣道やクラブ活動など魅力的な学校の授業にも参加しました。

このようなたくさんの素晴らしい経験をさせていただいたことは、どんなお土産よりも私たちの思い出として価値があります。私たちは、ご家庭やご家族で皆さんから受けたおもてなしを決して忘れることはありません。

私達はもうすぐここを去りますが、長岡京市を離れなければ、またここへ帰って来ることはできません。アーリントンと長岡京市は6000キロも離れた姉妹都市です。けれども、私たち市民にとってお互いの市はお互いの故郷だと呼べるでしょう。

みなさんが温かく受け入れていただいたお気持ちに何千回も感謝の気持ちを述べたいと思います。皆さんがアーリントンに帰ってきていただけますように、そして私たちが再び長岡京市に帰って来られますように。本当に本当にありがとうございました。また、すぐにお会いしましょう！



# アーリントン訪問団 友好紀行



## From Arlington To Nagaokakyo

## Welcome to the city of Nagaokakyo!

平成 22 年 7 月 7 日 (水) に、アーリントン訪問団が長岡京市役所に到着しました。



*Meeting with the Mayor.*

1 日目 (7 月 8 日) の最初は、長岡京市役所へ表敬訪問。市長と懇談しました。



*Meeting with MAYUMARO.*

懇談後は、光明寺へ出発。説法を聞き、石庭を見学しました。



*Priest's teaching.*

*Sushi Train.*

1 日目の昼食は回転ずし! たくさん食べて、日本食を楽しんでももらいました



昼食後は、長岡天満宮へ。

*Nagaokatenmangu shrine.*

歓迎パーティーで、1 日目が終わりました。



*Feeding the carp.*



*Sing at welcome party.*



# アーリントン訪問団 友好紀行



## From Arlington To Nagaokakyo

### The visit to Nagaoka-3 junior high school !

平成 22 年 7 月 9 日 (金) は、長岡第三中学校の生徒とともに、1 日を過ごしました。



授業に実際に入り、日本の授業を体験してもらいました。



昼食では、サンドウィッチやパンを、長岡第三中学校の生徒とともに食べました。



お昼からは、クラブ活動に参加してもらいました。



## Kendo



## Art



## Table Tennis



## Cooking



## Basketball



# アーリントン訪問団 友好紀行

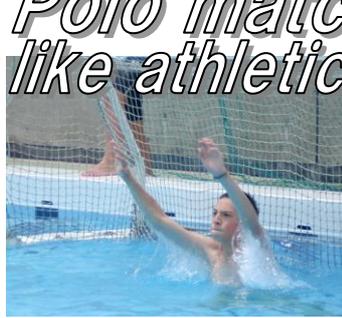


From Arlington To Nagaokakyo

## Water Polo and the Kyoto Tour!

平成 22 年 7 月 10 日 (土) は、乙訓高校で水球・バドミントンに参加しました。

*Water Polo match  
Do I look like athletic pro?*



*Golden Pavilion*

平成 22 年 7 月 12 日 (月) は京都観光です。

*Lunch*



雨上がりの金閣寺の美しさを堪能しました。



昼ごはんにお好み焼きをいただきました。

*Kiyomizu Temple Lover's Shrine*



清水寺・地主神社を  
訪れました。



*Made Yatsuhashi*



# アーリントン訪問団 友好紀行



From Arlington To Nagaokakyo

## Visit to local schools!

平成 22 年 7 月 13 日 (火) は、長岡第五小学校と西乙訓高等学校を訪問しました。いずれの学校でも、温かく迎えられました。



### In Nagaoka5-elementary school



English class

Introducing each other



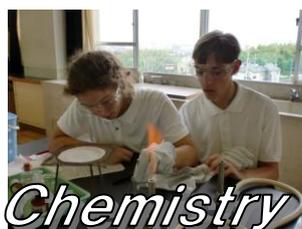
Calligraphy



Enjoying games!

レクリエーションも、楽しみました。  
昼食は、カレーライスでした。

### In Nishiotokuni high school



Chemistry

錬金術(?)を学びました。



Japanese archery



Kendo

クラブ活動を体験しました。



# アーリントン訪問団 友好紀行



From Arlington To Nagaokakyo

## Visit to Murata Co. and the Osaka tour

平成 22 年 7 月 14 日 (水) は、あいにくの雨でしたが、  
午前中は村田製作所見学、午後からは大阪観光をしました。



*Murata girl*

村田製作所では、  
ムラタセイサク君と  
ムラタセイコちゃんを  
見学しました。

*Murata boy*



*Murata Co.*

*In Osaka*



OBP 3 6 階でランチを  
いただきました。

*the Osaka castle*



*Shopping*

*Samurai Girls*



*Kamehameha!*





# アールトン訪問団 友好紀行



From Arlington To Nagaokakyo

## Nara tour

平成 22 年 7 月 15 日 (木) は、奈良観光に出かけました。

### Ancient Costume



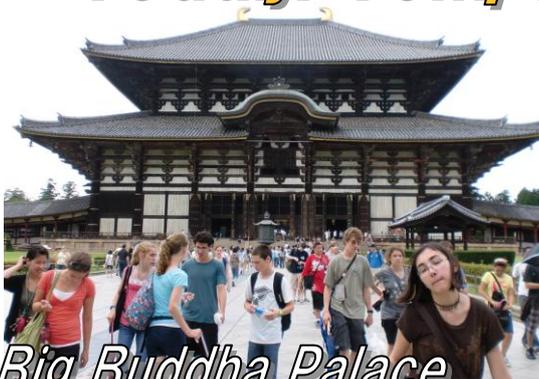
## Heijio Palace Site

### Guard Performance



平城遷都 1300 年際会場で当時の正装に袖を通し、衛兵の行進を見学しました。

## Todaiji Temple



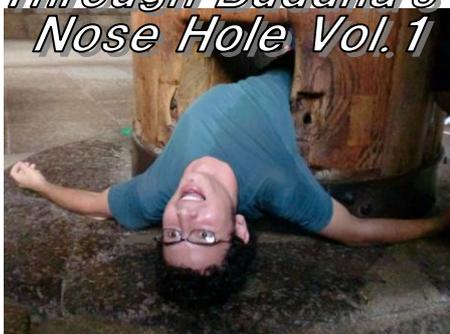
### Big Buddha Palace



## Big Buddha



### Through Buddha's Nose Hole Vol. 1



### Deers' attack

東大寺では大仏を見学し、鹿に襲われ、柱の穴をくぐりました。

### Through Buddha's Nose Hole Vol. 2





# アーバトン訪問団 友好紀行



From Arlington To Nagaokakyo

## Kyoto tour Vol.2

## Toei Studio Park

平成 22 年 7 月 16 日 (金) は、太秦映画村と嵐山を訪れました。

### Ninja Show



### With Geisha



### Old-Style Bridge



### Throwing Syuriken

東映太秦映画村では忍者ショーの見物や、舞妓さんとの記念撮影を楽しみました。

## Arashiyama

## Monkey Park

嵐山ではモンキーパークを訪れ、餌やりを体験しました。また、アクセサリーを手作りしました。

### Climbing the Monkey Mountain



### Looking down Kyoto Basin



### Making Accessories



### Giving Food





# アーリントン訪問団 友好紀行



From Arlington To Nagaokakyo

## Farewell

平成 22 年 7 月 16 日 (金) 夕方からサントリー  
京都ビール工場にてサヨナラパーティーが行われ、  
訪問団は翌日 17 日 (土) に関西国際空港から帰国されました。

## Farewell Party

### Nervous about the Speech



### Dressed up

### Speech Time



### After the Party

サヨナラパーティーでは  
日本語でスピーチをし、  
歌を歌ってお互いに別れを  
惜しかったです。

### Shiawasenara...

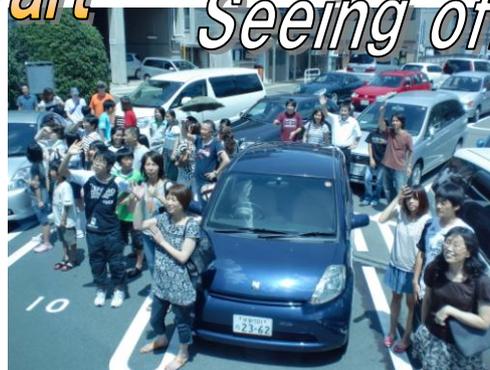


### Time to Part

### Seeing off



### The Last Group Picture



市役所の前で記念撮影をし、  
ホストファミリーとお別れをしました。